

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26293469

研究課題名(和文)被災地の小児がん患者と家族が経験する重層的なトランジションを支える看護のあり方

研究課題名(英文)How to support compiled transition childhood survivors and their families have experienced

研究代表者

上別府 圭子(Kamibeppu, Kiyoko)

東京大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：70337856

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：「トランジション」「看護学」をキーワードに、4領域の研究を実施し成果を得た。
1. 東日本大震災を経験した地域に暮らす小児がん患者と家族から半年ごとに継続的に話を伺い、家族のトラウマからの回復のトランジションを明らかにした。2. 臨床のスタッフとともに、小児慢性疾患経験者の成人移行期支援プログラム等、発達期のトランジションに関わる3本のプログラム開発を行い、評価研究を実施中である。3. 一般児童生徒への小児がん啓発プログラムを開発・実施し、評価を行った。(復学のトランジションを支える体制) 4. JCCGとの共同研究とともに、小児がん患者や乳がん患者の家族のQOLを明らかにした。(治療期のトランジション)

研究成果の概要(英文)：We have conducted and reported the following four research regarding "transition" and "nursing science": 1) We have conducted interviews for childhood cancer patients and their families that had experienced the Great East Japan Earthquake every six months in order to clarify their recovery transition from the trauma; 2) We have developed three programs to enhance the developmental transition among children with chronic illness and have been evaluating those in corporation with practitioners; 3) We have developed and evaluated an educational program for a general child population to increase the knowledge regarding childhood cancer (supportive system for school re-entry transition); 4) We have clarified the HRQOL among patients with childhood cancer and breast cancer and their parents in collaboration with JCCG (transition from on-treatment to off-treatment).

研究分野：family nursing

キーワード：transition 看護学 小児がん 震災 家族

1. 研究開始当初の背景

(1) 被災した小児がん患者と家族の回復の軌跡の共有と、災害後の長期的家族看護の解明

2011.3.11 に起きた東日本大震災の被災地に暮らしていた小児がん患者/経験者とその家族は、転院を余儀なくされた患者があったり、放射線の影響に特に神経質になったりしていると推測されるが、その経験の実態は明らかでない。過去にトラウマを経験した者が、別の心的外傷を伴う出来事を経験した場合、ストレス反応が増強されるという研究¹⁾と、後に起こる出来事に対してはしなやかに対処できるという理論²⁾がある。

(2) 小児慢性疾患経験者のスムーズな成人医療への移行のための総合病院型移行期支援プログラムの開発

医療の進歩に伴い成人を迎える小児慢性疾患患者は増加している。患者は原疾患の治療に加え、進路選択や妊娠・出産、成人期特有の疾患の合併など人生の各段階で課題に直面し、さらに病態は年齢と共に変遷するため小児医療の枠内に留めておくことは困難である。そのため、患者の発達年齢と医療ニーズに見合ったサービスが受けられるよう、段階的に整えていくことが望ましく³⁾、成人移行期を支援していく必要がある。さらに、移行先の多くを院内に有する総合病院における移行期支援プログラムは、小児専門病院を含むすべての医療施設における成人移行期支援のモデルになると考えられる。現在本邦においては、移行期支援体制の基盤構築段階であり、総合病院型移行期支援プログラムの開発が望まれる。しかし、成人移行期支援を行う上で小児医療者側の問題、成人医療者側の問題、そして小児慢性疾患患者・家族側の問題が指摘されている⁴⁾。より効果的でスムーズな移行期支援を検討するため、総合病院における小児医療および成人医療に携わる医師・看護師の相互理解が必要である。

(3) 一般児童生徒の小児がんに関する理解の促進

小児がん患者の多くは、6ヶ月～1年の長期入院を必要とし、その後、治療前に在籍した学校へ復学する。入院治療を終え、復学した小児がん患者が学校生活上の問題の解決や学校生活の継続を行う上で、同じクラスに在籍する児童生徒の役割は大きい⁵⁾。このため、小児がん患者が円滑に復学するために、児童生徒が小児がん患者への理解を得て、ポジティブな態度を形成することが必要であるとされる⁶⁾。

(4) 小児がん治療開発への看護学的指標（子どものQOL）の導入

臨床研究に患者・家族立脚型評価を採用することは、がん治療開発において国際的に必須となってきている。日本でも、研究代表者が、子どものQOL測定尺度（PedsQL）の日

本語版を開発し⁷⁾、子どものQOLの特徴や、評価・解釈における注意点を明らかにしてきた。

2. 研究の目的

(1) 小児がん罹患した子どもたちと家族が、東日本大震災を経て経験しているトランジションを明らかにする。

(2) 小児慢性疾患患者の成人移行期における問題点や支援のあり方について、①小児科及び小児外科医師の認識、②小児医療・成人医療に携わる看護師を含めた全看護師の認識、③小児科・小児外科医師と看護師の間の認識の共通点・相違点、を明らかにし、移行期支援体制構築へ向けた示唆を得る。

(3) 本研究の目的は、小児がんやその患者への理解やポジティブな態度の形成を目的とした児童生徒に対する授業の効果を検証することである。

(4) 小児がん罹患した子どもたちが、全国共通の治療プロトコルのもとで経験しているQOLのトランジションを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 東日本大震災を経験した小児がん患者・経験者本人とその家族（母親、父親、きょうだい1名）を対象に、面接調査による縦断的観察研究を行った。平成26～27年度に、東北地方の大学病院とこども病院（計2施設）において対象候補者に研究説明を行い、家族全員から同意を得られた場合に、研修（平成26年5月と平成27年7月に実施）を受けた面接者2名による半年おき6回（T1～T6）の家族面接を行った。面接では家族の体験（現在の治療状況、被災状況、被災時の治療状況とその後の闘病生活、困っていること、震災による影響）を自由に話してもらった。T1後、T2前、T4前、T6前に、信頼性・妥当性が確認されたPTSD、PTG、QOL、家族機能尺度への回答を得た。東京大学大学院医学系研究科・医学部と対象施設の倫理審査委員会の承認を得て行った。面接や質問紙の中で、ケアを要すると面接者が考えた場合、本人に断りのうえ、調査施設の担当医に伝える体制を整えて実施した。

(2) 大学病院1施設にて、小児科・小児科医、全看護師へ無記名自記式質問紙調査を実施した。質問紙は先行研究をもとに作成し、医師、看護師、研究者らを含む「移行期支援外来設立タスクフォース」にて討議の上作成した。分析は全変数の記述統計量を算出し、医師・看護師の2群で比較した。

(3) 平成26年度に、小児がん医療に関わる小児科医、研究者が討議の上、授業内容を決定した。平成27年度は佐賀県の小学生153名、

平成 28 年度は茨城県の高校生 412 名、群馬県の小学生 37 名を対象に小児がんの啓発を目的とした授業を実施した。また、授業の前後で、小児がんやその患者・経験者の知識、および小児がん患者・経験者との交流に対する意欲を評価した。

(4) 日本小児がん研究グループ (JCCG) 血液腫瘍分科会 (JPLSG) における 6 つの臨床試験 (Phase II~III) に、セカンダリエンドポイントもしくは観察項目として QOL 評価を導入した。また、1 つの臨床試験において、付随研究として QOL 調査を行った。JCCG、日本小児血液・がん学会、各臨床試験の研究代表者所属施設、東京大学大学院医学系研究科、参加各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 7 家族に研究説明を行い、家族全員から同意を得た。平成 29 年 3 月までに各 3~6 回の面接を完了した。患者の診断時年齢は 0 から 15 歳、診断は ALL、AML、神経芽腫等であった。4 家族は診断後に震災を、3 家族は震災後に診断・闘病を経験していた。T1 の面接結果を質的に分析し、二度の外傷体験を経験した家族において一度目の体験の際に家族の凝集性を増した場合には、それが二度目の体験における奮闘の糧となっていることを明らかにした。

(2) 医師 60 名、看護師 105 名から回答を得た。

①小児科・小児外科医師の 8 割が移行期支援を経験していたが、経験年数が短いほど「困難である」と回答した。移行期支援の阻害要因は「患者・家族が希望しない」が最多であり、促進要因は「成人診療科の理解」が最多であった。症例検討による経験の共有や、患者・家族、小児医療、成人医療の 3 者をベースとした、問題・目標共有の必要性が示唆された。

②移行期支援に関する認知や関心の低さは全看護師に共通しており、看護師全体に対する移行期支援についての教育を行う必要がある。移行期支援の阻害要因は、小児系看護師が「医療者側」にあると考え、成人系看護師は「患者側」にあると考えており、認識に相違があった。看護師間連携を高める研修や、移行支援コーディネーター要請を含む支援体制の整備が望まれる。

③移行期支援開始の適切な時期については、小児科・小児外科医師、小児系看護師に共通して「15 歳」が最も多かったが、看護師は「0~7 歳」というより低い年齢からの開始も想定しており、成長発達を見越した看護の視点を移行期支援へ生かす可能性が示された。重要な役割を果たす職種について、医師、看護師の他に臨床心理士やソーシャルワーカーも挙げられており、多職種連携を基盤とする

診療ネットワーク構築の重要性が示された。④上記調査結果をふまえ、医師・看護師協働による「成人移行期支援外来」を開設した。年間 15 例の症例を経験し、患者の移行期支援についての動機付けを目的としたプログラムを開発、評価のための無作為化比較試験を計画中である。

(3) 授業前後で、児童生徒における小児がんに関する知識は概ね向上したが、学習の遅れに関する知識は向上しなかった。また、児童生徒における小児がん患者との交流への関心は授業後に高まったが、授業後 1 ヶ月まで維持できなかった。このため、学習の遅れに関する内容の工夫、小児がん患者への関心を長期的に向上する授業形式の検討が必要である。

(4) QOL 研究センター体制を構築し、現在までに 1799 名の症例登録、2484 通の QOL 調査票回収を得た。追跡を継続中である。また、B 前駆細胞性急性リンパ性白血病の寛解導入療法時の QOL に対する自己評価と保護者評価の相違と、付き添いと関連を明らかにした。

<引用文献>

1) Suliman S, et al. Cumulative effect of multiple trauma on symptoms of posttraumatic stress disorder, anxiety, and depression in adolescents. *Compr Psychiatry* 50, 2009, 121-127.

2) Janoff-Bulman R. Schema-change perspectives on posttraumatic growth. In: Calhoun LG, et al. eds. *Handbook of Posttraumatic Growth*. NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Inc. 2006: 81-99.

3) Fegran, L, et al. Adolescents' and young adults' transition experiences when transferring from paediatric to adult care: a qualitative metasynthesis. *International journal of nursing studies*, 2014; 51(1), 123-135.

4) 五十嵐隆. 成人にまで持ち越す慢性疾患をもつ子どものためにどのような医療体制を整備するのか. *保健の科学*, 2011; 53(8), 508-511.

5) Leigh LD, et al. Educational issues for children with cancer. In: Pizzo PA, Poplack DG (eds). *Principles and practice of pediatric oncology*, 5th edn. Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006: 1463-76.

6) Lightfoot J, et al. Supporting pupils in mainstream school with an illness or disability: Young people's views. *Child care health Dev* 1999; 25(4): 267-84.

7) Kobayashi K, Kamibeppu K. Measuring quality of life in Japanese children: Development of the Japanese version of

PedsQLTM. *Pediatr Int* 52, 2010, 80-88.

5. 主な発表論文等

〔論文雑誌〕(計 17 件)

① Kobayashi K, Yamaguchi E, Hayakawa A, Adachi S, Hara J, Tokimasa S, Ohta H, Hashii Y, Rikiishi T, Sawada M, Kuriyama K, Kohdera U, Kamibeppu K, Kawasaki H, Oda M, Hori H. HRQOL of Japanese children with acute lymphoblastic leukemia during and after chemo-therapy. *Pediatrics International*. 2016 Jul. DOI: 10.1111/ped.13092. 査読あり.

② Soejima T, Kamibeppu K. Are cancer survivors well-performing workers? : A systematic review. *Asia Pacific Journal of Clinical Oncology*. 2016 Apr; DOI: 10.1111/ajco.12515. 査読あり.

③ Kikuchi R, Mizuta K, Urahashi T, Sanada Y, Yamada N, Onuma E, Ono M, Endo M, Sato I, Kamibeppu K. Development of the Japanese Version of the PedsQLTM Transplant Module. *Pediatrics International*. 2016 Jun. DOI: 10.1186/1477-7525-8-38. 査読あり.

④ 上別府圭子, 副島堯史. 小児がん患者の復学-患児が体験する<あいだ>, 家族が結ぶ<あいだ>, 多職種間でつながる<あいだ>-. 質的心理学フォーラム. 2016 Sep; 8: 32-38.

<http://www.jaqp.jp/forum/forummokuji/#vol8>. 査読あり.

⑤ 佐藤伊織. 小児がん患者と家族の治療中からの Quality of Life を高めるケア. 保健の科学. 2016 Jan; 58(1): 51-57. <http://www.kyorin-shoin.co.jp/MagDetail.aspx?PID=50475&LINK=index.aspx>. 査読なし.

⑥ 佐藤伊織, 上別府圭子. 小児がん看護の場における高次脳機能障害をもつ子どもと家族の理解. *小児看護*. 2016 Dec; 39(13): 1620-1625.

<https://www.herusu-shuppan.co.jp/sn201612/>. 査読なし.

⑦ Kamibeppu K, Sato I, Hoshi Y. The experience of Japanese adolescents and young adults after losing siblings to childhood cancer; three types of narrative. *Journal of Pediatric Oncology Nursing*. 2015 May-Jun; 32(3): 165-177. <http://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/1043454214554013>. 査読あり.

⑧ Sato I, Higuchi A, Yanagisawa T, Mukasa A, Ida K, Sawamura Y, Sugiyama K, Saito N, Kumabe T, Terasaki M, Nishikawa R, Ishida Y, Kamibeppu K. Parent's perceived provision of information regarding diagnosis to children with brain tumors. *Open Journal of Nursing*. 2015 May; 5(5): 451-464. DOI:

10.4236/ojn.2015.55048. 査読あり.

⑨ Soejima T, Sato I, Takita J, Koh K, Maeda M, Ida K, Kamibeppu K. Support for school reentry and relationships among children with cancer, peers, and teachers. *Pediatrics International*. 2015 Dec; 57(6): 1101-1107. DOI: 10.1111/ped.12730. 査読あり.

⑩ 日本小児がん看護学会編集委員会, 日本小児がん看護学会編集事務局. 若年成人となった小児がん経験者が成人医療へとスムーズに移行(トランジション)するためのケアモデル. *小児がん看護*. 2015; 10(1): 11-13. http://www.jspon.com/journal/J_JSPO10-1_2015.pdf. 査読あり.

⑪ 平賀健太郎, 野中らいら, 副島堯史, 東樹京子, 佐藤伊織, 武田鉄郎, 上別府圭子. 小児がん患児における特別支援教育コーディネーターの役割意識の構造とその影響要因. *育療*. 2015 Nov; 58: 45-51. <http://nihonikuryo.jp/book.html>. 査読あり.

⑫ Ozono S, Ishida Y, Honda M, Okamura J, Asami K, Maeda N, Sakamoto N, Inada H, Iwai T, Kamibeppu K, Kakee N, Horibe K. General health status and late effects among adolescent and young adult survivors of childhood cancer in Japan. *Japanese Journal of Clinical Oncology*. 2014; 44(10): 932-40. DOI: <https://doi.org/10.1093/jjco/hyu102>. 査読あり.

⑬ Sato I, Higuchi A, Yanagisawa T, Mukasa A, Ida K, Sawamura Y, Sugiyama K, Saito N, Kumabe T, Terasaki M, Nishikawa R, Ishida Y, Kamibeppu K. Cancer-specific health-related quality of life in children with brain tumors. *Quality of Life Research*. 2014; 23(4): 1059-68. DOI: 10.1007/s11136-013-0555-x. 査読あり.

⑭ Sato I, Higuchi A, Yanagisawa T, Murayama S, Kumabe T, Sugiyama K, Mukasa A, Saito N, Sawamura Y, Terasaki M, Shibui S, Takahashi J, Nishikawa R, Ishida Y, Kamibeppu K. Impact of late effects on health-related quality of life in survivors from pediatric brain tumors: motility disturbance of limb(s), seizure, ocular/visual impairment, endocrine abnormality, and higher brain dysfunction. *Cancer Nursing: An International Journal for Cancer Care*. 2014; 37(6): E1-E14. doi: 10.1097/NCC.000000000000110. 査読あり.

⑮ Kaneko M, Sato I, Soejima T, Kamibeppu K. Health-related quality of life in young adults in education, employment, or training: development of the Japanese version of Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) Generic Core

Scales Young Adult Version. Quality of Life Research. 2014; 23(7): 2121-31. (*The first two authors have contributed equally to this work). DOI:

10.1007/s11136-014-0644-5. 査読あり.

⑩ 副島堯史, 村山志保, 東樹京子, 佐藤伊織, 平賀健太郎, 武田鉄郎, 上別府圭子. 小中学校の教員における小児がんへの認識および小児がん経験者への支援. 小児保健研究. 2014; 73(5): 697-705. <https://www.jschild.med-all.net/articles/index?volume=73&number=5>. 査読あり.

⑪ 吉備智史, 池田真理, 上別府圭子. 日本における小児に対する「いのちの教育」に関する研究－医療関係者による実践に着目して－. 日本小児看護学会誌, 2014; 23(3): 70-76. http://doi.org/10.20625/jschn.23.3_70. 査読あり.

〔学会発表〕(計 15 件)

① 中嶋祥平(代表), 小児造血幹細胞移植を受けた外来フォローアップ中の患者の Quality of Life と慢性 GVHD, 第 39 回日本造血細胞移植学会総会, 平成 29 年 3 月 2-4 日, 「くにびきメッセ/島根県民会館(島根・松江市)」

② 岩崎美和(代表), 臨床－大学との協働による小児造血幹細胞移植後フォローアップ外来の運営プロセス, 第 39 回日本造血細胞移植学会総会, 平成 29 年 3 月 2-4 日, 「くにびきメッセ/島根県民会館(島根・松江市)」

③ 上別府圭子, 教育セッション QOL, 長期フォロー, 小児がん治療中・治療後の QOL 研究, 第 58 回日本小児血液・がん学会学術集会, 平成 28 年 12 月 15-17 日, 「品川プリンスホテル(東京・品川区)」

④ 大園秀一(代表), 改訂版長期フォローアップ手帳 (Follow Up Diary) の使用感に関する全国調査, 平成 28 年 12 月 15-17 日, 「品川プリンスホテル(東京・品川区)」

⑤ Nakamura M(代表), Qualitative Assessment of Love, Marriage, Pregnancy and Childbirth Perceptions among Adolescent Girls with Congenital Heart Disease, 12th Asian Society for Pediatric Research, 10-11 November, 2016, 「Bangkok,(Thailand)」

⑥ 上別府圭子, 教育講演 AYA 世代の小児がんサバイバーの発達課題と成長, 第 29 回日本サイコオンコロジー学会総会, 平成 28 年 9 月 23-24 日, 「札幌コンベンションセンター (北海道・札幌市)」

⑦ 佐藤伊織(代表), 小児脳腫瘍経験者にとっての家族機能: Family APGAR の配置不変と測定不変, 第 23 回日本家族看護学会学術集会, 平成 28 年 8 月 27-28 日, 「山形テルサ(山形・山形市)」

⑧ 中村真由美(代表), 小児慢性疾患患者の成人移行期における親子関係～小児看護経験者から見た課題と医療者による支援の必要性～, 第 23 回日本家族看護学会学術集会,

平成 28 年 8 月 27-28 日, 「山形テルサ(山形・山形市)」

⑨ 鈴木征吾(代表), 小児慢性疾患患者の成人移行期支援に関する全看護師を対象とした意識調査－院内協働支援体制の構築に向けた研究－, 第 20 回日本看護管理学会学術集会, 平成 28 年 8 月 19-20 日, 「パシフィコ横浜 (神奈川・横浜市)」

⑩ 関口ひろみ(代表), 小児慢性疾患患者の成人移行期支援に関する小児系医師と看護師を対象とした意識調査－院内協働支援体制の構築に向けた研究－, 第 20 回日本看護管理学会学術集会, 平成 28 年 8 月 19-20 日, 「パシフィコ横浜 (神奈川・横浜市)」

⑪ 中村真由美(代表), 先天性心疾患を有する思春期女性の妊娠・出産についての意識に関する質的研究, 第 52 回日本小児循環器学会・学術集会, 平成 28 年 7 月 6-8 日, 「東京ドームホテル(東京・文京区)」

⑫ 菊池良太(代表), 小児系医師を対象とした移行期医療に関する意識調査, 第 119 回日本小児科学会学術集会, 平成 28 年 5 月 13-15 日, 「ロイトン札幌/さっぽろ芸術文化の館(北海道・札幌)」

⑬ 上別府圭子 (委員長), 看護学術交流セミナー「復学支援: 実践と研究の対話」, 第 13 回日本小児がん看護学会学術集会, 平成 27 年 11 月 27-29 日, 「甲府富士屋ホテル/常盤ホテル(山梨・甲府市)」

⑭ 菊池良太(代表), 日本語版 Pediatric Quality of Life Inventory 移植モジュールの開発と信頼性・妥当性の検討, 第 51 回日本移植学会総会, 平成 27 年 10 月 1-3 日, 「ホテル日航熊本(熊本・熊本市)」

⑮ Kikuchi R(代表), Health-related quality of life in parents of pediatric organ transplant recipients in Japan, 8th Congress of the International Pediatric Transplant Association, March 28-31, 2015 「San Francisco(USA)」

〔図書〕(計 7 件)

① 副島堯史, 大城怜, 上別府圭子 (著). がん患者や、きょうだい・家族を対象とした PTG 研究. 金子書房, 2016 Nov; 50-58. PTG の可能性と課題.

② 佐藤伊織, 滝知彦, 上別府圭子, (著). 小児がん 臨床研究と子どものインフォームド・コンセントとアセント. 医学ジャーナル社, 2016 Aug; 290-301. よくわかる臨床研究～小児がん.

③ 佐藤伊織 (著). グリオーマ手術に適切な QOL 評価. 文光堂, 2016 May; 132-134. 脳神経外科診療プラクティス 7 グリオーマ治療の Decision Making.

④ 上別府圭子 (編集). 特集 がん患者や家族の「働くこと」をめぐる課題. 保健の科学, 杏林書院, 2016 Jan; 58(1).

⑤ 上別府圭子 (編集). 特集 家族支援・家族療法. 保健の科学, 杏林書院, 2015 Jun;

57(6).

⑥ 上別府圭子(編集) 保健の科学 特集
エビデンス”のある心理療法(2) -子ども
と家族のためのプログラム-杏林書院. 2014
Oct 56(10).

⑦ 副島堯史, 上別府圭子(著). 学校・教育
支援. 診断と治療社, 2015 Nov; 311-313.
小児 血液・腫瘍学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上別府 圭子(KAMIBEPPU, Kiyoko)
東京大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号: 70337856

(2) 研究分担者

塩飽 仁(SHIWAKU, Hitoshi)
東北大学・医学(系)研究科(研究院)・教授
研究者番号: 50250808

小見山 智恵子(KOMIYAMA, Chieko)
東京大学・医学部附属病院・看護部長
研究者番号: 60581637

本多 奈美(HONDA, Nami)
東北大学・大学病院・助教
研究者番号: 60282133

笹原 洋二(SASAHARA, Youji)
東北大学・大学病院・講師
研究者番号: 60372314

池田 真理(IKEDA, Mari)
東京女子医科大学・教養学部・教授
研究者番号: 70610210

川原(森下)美紀(KAWAHARA, MORISHITA,
Miki)
国立研究開発法人国立がん研究センター・社
会と健康研究センター・特任研究員
研究者番号: 10758840

(3) 連携研究者

佐藤 伊織(SATO, Iori)
東京大学・大学院医学系研究科・講師
研究者番号: 20622252

キタ 幸子(KITA, Sachiko)
東京大学・大学院医学系研究科・助教
研究者番号: 70757046

副島 堯史(SOejima, Takafumi)
東京大学・大学院医学系研究科・助教
研究者番号: 00768989

(4) 研究協力者

力石 健(RIKIISHI, Ken)
井上 由紀子(INOUE, Yukiko)
鈴木 祐子(SUZUKI, Yuko)
今泉 益栄(IMAIZUMI, Masue)
名古屋 祐子(NAGOYA, Yuko)
山根 有紀(YAMANE, Yuki)
高橋 桃子(TAKAHASHI, Momoko)
早坂 広恵(HAYASAKA, Hiroe)
津田 礼子(TUDA, Reiko)
後藤 美那未(GOTO, Minami)
高橋 ゆかり(TAKAHASHI, Yukari)
佐藤 篤(SATO, ATUSHI)
平田 陽一郎(HIRATA, Youichiro)
岩崎 美和(IWASAKI, Miwa)
佐竹 和代(SATAKE, Kazuyo)
菊池 良太(KIKUCHI, Ryota)
星 順隆(HOSHI, Yasutaka)
大瀧 優子(OSUKI, Yuko)
風間 ゆかり(KAZAMA, Yukari)
寺内 千絵(TERAUCHI, Chie)
竹内 文香(TAKEUCHI, Ayaka)
前田 美穂(MAEDA, Miho)
石田 也寸志(ISHIDA, Yasusi)
康 勝好(KOH, Katuyosi)
福地 朋子(FUKUCHI, Tomoko)
田中 はるみ(TANAKA, Harumi)
井上 雅美(INOUE, Masami)
渡邊 健太郎(WATANABE, Kentaro)
滝田 順子(TAKITA, Junko)
徳山 美香(TOKUYAMA, Mika)
渡邊 健一郎(WATANABE, Kenichiro)
多田 敬一郎(TADA, Keiichiro)
毛利 美礼(MOURI, Mirei)
鈴木 美穂(SUZUKI, Miho)
大野 真司(OHNO, Sinji)
山内 英子(YAMAUCHI, Hideko)
竹井 淳子(TAKEI, Junko)
湯舟 邦子(YUBUNE, Kuniko)
中村 清吾(NAKAMURA, Seigo)
福地本 晴美(FUKUCHIMOTO, Harumi)
栗原 佳代子(KURIHARA, Kayoko)
江本 駿(EMOTO, Shun)
戸部 浩美(TOBE, hiromi)
鈴木 征吾(SUZUKI, Seigo)
中村 真由美(NAKAMURA, Mayumi)
中嶋 祥平(NAKAJIMA, Shohei)
大城 怜(OSHIRO, Rei)
梅下 かおり(UMESHITA, Kaori)
小林 明日香(KOBAYASHI, Asuka)
村田 翔(MURATA, Sho)
吉備 智史(KIBI, Satoshi)